



資産形成の学校

出口戦略の基本講座

定口取り崩しの 長所と短所

Q

定額や定率という方法
以外に取り崩しの方法は
ありますか？

A

定口取り崩しや
定口＋期間指定の方法が
あるのでまずは理解を
してください。

定口とは？

定口取り崩し

定口取り崩しを理解するために、「口数」とは何かを理解する

◇そもそも「口数」とは、投資信託の単位。

卵を1個、2個と数えるように、株式の場合、「1株」、投資信託は「1口」と数えます。

例) 100万円で基準価額10,000円の投資信託を購入すると、「100万口」を取得する

※基準価額は1万口あたりで表示されるので、この場合1口=1円になる。

計算式) 購入金額 ÷ 基準価額 = 取得口数

$$100\text{万円} \div 10,000 \div 10,000 = \underline{100\text{万口}}$$

補足) 1枚1円の紙を100万円分買いました。紙は何枚でしょうか? ➡ 100万枚です。

定口取り崩し

定口取り崩しを理解するために、「口数」とは何かを理解する

例) 楽天証券の保有商品一覧

注文	ファンド	分配金 コース	保有数量 Lスポット・積立 (内訳を表示)	平均取得価額 取得総額	基準価額 前日比 / 前月比	時価評価額 評価損益 円 %	トータル リターン	あし あと
買い 売却	楽天・全米株式インデック ス・ファンド(楽天・VTI)	再投資型	+ 964,053 口	18,593.88 円 1,792,548 円	24,428 円 0 円	2,354,989 円 +562,440 円	+ +591,989 円	詳細

$$\begin{array}{c} \text{保有数量} \\ 964,053 \text{ 口} \end{array} \times \begin{array}{c} \text{1 口の価格} \\ 2.4428 \text{ 円} \end{array} = \begin{array}{c} \text{時価評価額} \\ 2,354,989 \text{ 円} \end{array}$$

持っている口数に、現在の金額をかけたものが評価額になっている

定口取り崩し

定口取り崩しは、「期間指定」の取り崩しということもある

売却指定方法

①金額指定

受渡日に受取る金額を指定する

②定率指定

各売却日における指定投資信託の保有口数のうち、お客様があらかじめ指定した割合に相当する口数を定期的に売却する

③期間指定

受取最終売却年月を指定し、指定投資信託の保有口数を、受取開始から最終受取月までの売却回数で等分した口数を定期的に売却する



最終的なゴールを決めて資産を0にする取り崩し方法

定口取り崩し のメリット

定口取り崩しのメリット

定口取り崩しも、定率同様に定額取り崩しの収益率配列のリスクを回避できる

例) 毎年約666,666口ずつ取り崩す場合

- ・運用資産2000万円を30年間(360カ月)で取り崩しを行う(70歳から100歳までと決定)
- ・取り崩しを始めるときの基準価額1万円とすると、2000万口保有していることになる
- ・2000万口 ÷ 360回 ÷ 55555口ずつ毎月取り崩しをすることになる
- ・55,555口数 × 12ヶ月 = 666,666口を毎年年初(1月1日)に生活費として取り崩す

取り崩し年数	年間の利回り	基準価額 [円]	取り崩し口数 [口]	取り崩し額 [万円]	保有口数 [万口]	年初残高 [万円]	期末残高 [万円]	増減額(年初-期末) [万円]
1年目	20.0%	12,000	666666	80	2000	2000	2304	304

※基準価額は年間の利回り分をかけた分上がったと計算
1年目の基準価額 = 10,000円 × 20% = 12,000円
※1年目の取り崩し額 = 基準価額×取り崩し口数 ÷ 約80万円

※小数点以下は四捨五入

定口取り崩しのメリット

定口取り崩しも、定率同様に定額取り崩しの収益率配列のリスクを回避できる

例) 前半がプラス利回り、後半がマイナス利回りの場合
10年後の残高1793万円、総取り崩し額2876万円

※小数点以下は四捨五入

取り崩し年数	年間の利回り	基準価額 [円]	取り崩し口数 [口]	取り崩し額 [万円]	保有口数 [万口]	年初残高 [万円]	期末残高 [万円]	増減額(年初-期末) [万円]
取り崩し前		10000	0	0	2000	2000	2000	
1年目	20.0%	12,000	666666	67	1933	2000	2320	320
2年目	10.0%	13,200	666666	80	1867	2320	2464	144
3年目	30.0%	17,160	666666	88	1800	2464	3089	625
4年目	9.0%	18,704	666666	114	1733	3089	3242	153
5年目	12.0%	20,949	666666	125	1667	3242	3491	249
6年目	-5.0%	19,901	666666	140	1600	3491	3184	-307
7年目	-8.0%	18,309	666666	133	1533	3184	2807	-377
8年目	-10.0%	16,478	666666	122	1467	2807	2417	-391
9年目	-4.0%	15,819	666666	110	1400	2417	2215	-202
10年目	-15.0%	13,446	666666	105	1333	2215	1793	-422
10年間の平均利回り	3.9%							
総額			6666660	1083				
残高と取り崩し額の合計							2876	

定口取り崩しのメリット

定口取り崩しも、定率同様に定額取り崩しの収益率配列のリスクを回避できる

例) 前半がマイナス利回り、後半がプラス利回り、の場合
10年後の残高1793万円、総取り崩し額2350万円

※小数点以下は四捨五入

取り崩し年数	年間の利回り	基準価額 [円]	取り崩し口数 [口]	取り崩し額 [万円]	保有口数 [万口]	年初残高 [万円]	期末残高 [万円]	増減額(年初-期末) [万円]
取り崩し前		10000	0	0	2000	2000	2000	
1年目	-15.0%	8,500	666666	67	1933	2000	1643	-357
2年目	-4.0%	8,160	666666	57	1867	1643	1523	-120
3年目	-10.0%	7,344	666666	54	1800	1523	1322	-201
4年目	-8.0%	6,756	666666	49	1733	1322	1171	-151
5年目	-5.0%	6,419	666666	45	1667	1171	1070	-101
6年目	12.0%	7,189	666666	43	1600	1070	1150	80
7年目	9.0%	7,836	666666	48	1533	1150	1202	51
8年目	30.0%	10,187	666666	52	1467	1202	1494	293
9年目	10.0%	11,205	666666	68	1400	1494	1569	75
10年目	20.0%	13,446	666666	75	1333	1569	1793	224
10年間の平均利回り	3.9%							
総額			6666660	557				
残高と取り崩し額の合計							2350	

定口取り崩しは定率取り崩しと特徴が同じ

	前半がプラス、後半がマイナス	前半がマイナス、後半がプラス
定口 取り崩し 666,666口	10年後の残高 1793万円	
	取り崩し額 1083万円	取り崩し額 557万円
	総取り崩し額 2876万円	総取り崩し額 2350万円
定率 取り崩し 6%	10年後の残高 1448万円	
	取り崩し額 1463万円	取り崩し額 767万円
	総取り崩し額 2911万円	総取り崩し額 2216万円

定口取り崩し
のデメリツト

定口取り崩しのデメリット『取り崩し率が増加する』

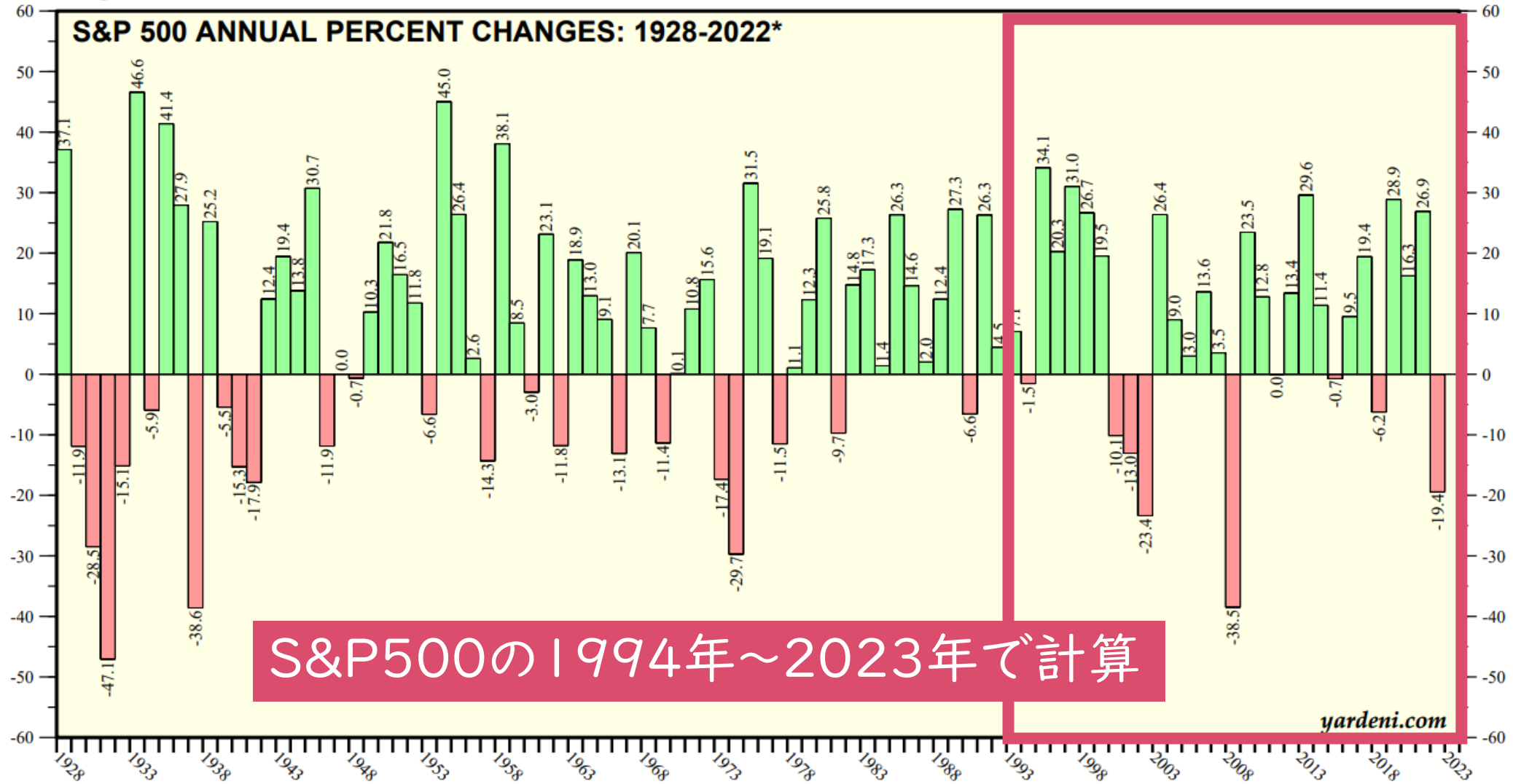
定口取り崩しは取り崩し金額が変動し、取り崩し率が増加傾向に

(計算式) 取り崩し額 = (定口 ÷ 残り口数) × 価格。取り崩すたびに口数は減るので、取り崩し率は毎年増加。下記の例は30年中の10年目なので、取り崩し率も約33%になる

取り崩し年数	年間の利回り	基準価額 [円]	取り崩し口数 [口]	取り崩し口数 の合計[口]	取り崩し率 [%]	取り崩し額 [万円]	保有口数 [万口]	年初残高 [万円]	期末残高 [万円]
取り崩し前		10000	0	0	0	0	2000	2000	2000
1年目	20.0%	12,000	666666	666666	3%	67	1933	2000	2320
2年目	10.0%	13,200	666666	1333332	7%	80	1867	2320	2464
3年目	30.0%	17,160	666666	1999998	10%	88	1800	2464	3089
4年目	9.0%	18,704	666666	2666664	13%	114	1733	3089	3242
5年目	12.0%	20,949	666666	3333330	17%	125	1667	3242	3491
6年目	-5.0%	19,901	666666	3999996	20%	140	1600	3491	3184
7年目	-8.0%	18,309	666666	4666662	23%	133	1533	3184	2807
8年目	-10.0%	16,478	666666	5333328	27%	122	1467	2807	2417
9年目	-4.0%	15,819	666666	5999994	30%	110	1400	2417	2215
10年目	-15.0%	13,446	666666	6666660	33%	105	1333	2215	1793
10年間の平均利回り		3.9%							
総額			6666660						
残高と取り崩し額の合計									2876

定口取り崩しのデメリット『決定した年数で資産0になる』

例) 実際のS&P500の年間利回りのデータを用いて、30年間で定口取り崩し



出典: Stock Market Indicators: Historical Monthly & Annual Returns

定口取り崩しのデメリット『決定した年数で資産0になる』

年	取り崩し年数	年間の利回り	基準価額 [円]	取り崩し口数 [口]	取り崩し額 [万円]	保有口数 [万口]	年初残高 [万円]	期末残高 [万円]
1993	取り崩し前		10000	0	0	2000	2000	2000
1994	1年目	7.1%	10,710	666666	67	1933	2000	2071
1995	2年目	-1.5%	10,549	666666	71	1867	2071	1969
1996	3年目	34.1%	14,147	666666	70	1800	1969	2546
1997	4年目	20.3%	17,018	666666	94	1733	2546	2950
1998	5年目	31.0%	22,294	666666	113	1667	2950	3716
1999	6年目	26.7%	28,247	666666	149	1600	3716	4519
2000	7年目	19.5%	33,755	666666	188	1533	4519	5176
2001	8年目	-10.1%	30,346	666666	225	1467	5176	4451
2002	9年目	-13.0%	26,401	666666	202	1400	4451	3696
2003	10年目	-23.4%	20,223	666666	176	1333	3696	2696
2004	11年目	26.4%	25,562	666666	135	1267	2696	3238
2005	12年目	9.0%	27,862	666666	170	1200	3238	3343
2006	13年目	3.0%	28,698	666666	186	1133	3343	3252
2007	14年目	13.6%	32,601	666666	191	1067	3252	3477
2008	15年目	3.5%	33,742	666666	217	1000	3477	3374
2009	16年目	-38.5%	20,751	666666	225	933	3374	1937
2010	17年目	23.5%	25,628	666666	138	867	1937	2221
2011	18年目	12.8%	28,908	666666	171	800	2221	2313
2012	19年目	0.0%	28,908	666666	193	733	2313	2120
2013	20年目	13.4%	32,782	666666	193	667	2120	2185
2014	21年目	29.6%	42,486	666666	219	600	2185	2549
2015	22年目	11.4%	47,329	666666	283	533	2549	2524
2016	23年目	-0.7%	46,998	666666	316	467	2524	2193
2017	24年目	9.5%	51,463	666666	313	400	2193	2059
2018	25年目	19.4%	61,446	666666	343	333	2059	2048
2019	26年目	-6.2%	57,637	666666	410	267	2048	1537
2020	27年目	28.9%	74,294	666666	384	200	1537	1486
2021	28年目	16.3%	86,403	666666	495	133	1486	1152
2022	29年目	26.9%	109,646	666666	576	67	1152	731
2023	30年目	-19.4%	88,375	666666	731	0	731	0
10年間の平均利回り		9.1%						
総額			19999980			7246		
残高と取り崩し額の合計						9942		

S&P500の実際のデータで
30年間の定口取り崩し



定率や定額の場合は、
最後のゴールを決めていないため
資産額が0にならない。

しかし、例のように30年間で
使い切るために定口で取り崩すと
資産額は30年で完全に0になる

まとめ

定口取り崩しのメリットとデメリットを理解して出口戦略を考えてください

メリット

- ・毎年の利回りの並び方の問題を回避できる
- ・資産をすべて0にして死ぬことができるので理想的

デメリット

- ・取り崩し率は年数ごとに増加をしていく
- ・毎年の生活費として取り崩し金額が違うのはわかりづらい



定口の取り崩しは、資産をすべて使えるので
選択肢として考えられるが、デメリットもあるので理解をする。

Q

定額や定率という方法
以外に取り崩しの方法は
ありますか？

A

定口取り崩しや
定口＋期間指定の方法が
あるのでまずは理解を
してください。